

プロジェクト管理論

第一回レポート課題

提出日：19年10月11日

1. 課題 1

本日の講義で説明した多くのプロジェクトの中から一つのプロジェクトを取り上げ、次の内容について説明しなさい。

トヨタ自動車株式会社における「LEXUS」のプロジェクトを取り上げる。

(1) そのプロジェクトは何を目的とするものか、また、誰のために実施するプロジェクトか。

LEXUS をトヨタの高級車ブランドとして北米で売り出し、新たな市場を開拓することが目的である。誰のためという観点では、単純に会社の収益を増加させ、ステークホルダーに利益を還元するためであると考ええる。

(2) プロジェクトに与えられた Mission (使命) は何か。

■ LEXUS の Mission とは

前述したように、企業の Mission は、ステークホルダーに対し、利益の還元を通じて貢献することである。これを LEXUS のプロジェクトの事例で考えてみる。

北米での一般的な高級車のイメージには、ドイツの「メルセデス・ベンツ」、「BMW」といったものが定着してしまっている。このような状況の中で LEXUS ブランドに課せられた Mission は、上記のような固定概念を払拭し、LEXUS を「メルセデス・ベンツ」や「BMW」といったブランドと肩を並べる存在に引き上げることである。

■ トヨタのコア・ケーパビリティ

結論から言えば、LEXUS ブランドは収益を飛躍的に向上させることに成功している。その主な要因は2つあると考えられる。

・ 市場開発力

トヨタのコア・ケーパビリティの中で特に秀でているのは、市場を開拓する力である。トヨタは多種多様な車種を開発・生産し、常に新たな市場を開拓している。LEXUS は高級車の市場を開拓する目的で作られたブランドである。

しかし、トヨタは LEXUS が「トヨタ」の色を強く持ってしまうと、逆に市場が引いてしまうことを懸念した。そこで、LEXUS ではトヨタの名前を排除し、ロゴマークも独自のものを採用。トヨタとは違う別のブランドであることを強調するという戦略をとり、上記の問題を解決した。この戦略は功を奏し、LEXUS の売上向上の一端を担っている。

また、トヨタは企業戦略のスペシャリストを集めたチームを有しており、一つの企業として成立するレベルの力を持つという。

．高い技術力

トヨタは市場開発力に加え、高い技術力も備えている。北米では、重厚で威厳を放つ高級車がアメリカンドリームを勝ち得た「勝者のシンボル」であり、例え壊れやすくとも名門ブランドの名のもとに許容されていた。

しかし、旧来の高級車を避ける傾向は富裕層の中にも確実に存在し、名門とされてきたブランドも、若年層にとっては「古臭い」と見えていることを LEXUS ブランド導入に備え事前調査を進めていたトヨタはつかんでいた。

そこで、ドイツ製高級車に匹敵する品質と、日本車ならではの信頼性を高い次元で両立させることにより、LEXUS は北米での市場開拓に成功した。これはひとえにトヨタの高い技術力があってこそなせる業であると考えられる。

2. 課題 2

本日の講義内容で印象に残ったこと、興味を持ったことを書いてください。

具体的な企業名、商品名を取り上げ、その企業戦略や販売戦略について解説してくれたこと。また、身近でわかりやすい例を挙げて、プロジェクト管理における難しい概念などを説明してくれたことが印象に残っている。

■ *Mission* について

まず、Misson について解説するとき、オリンピック等の世界大会を取り上げ、このような国際大会も一種の国家プロジェクトであり、マスコミの煽りや国民の期待が大きなプレッシャーとなっているという例を取り上げてくれた。この例から、Misson は必要以上に大きなものとなると、達成が困難になってしまうことがわかった。また、受験は受験生にとってのプロジェクトであり、その達成要求は大学入試にパスすることであるという話も印象に残っている。

■ 市場開発力の重要性

次に、ソニーの PS3・「任天堂」の DS の例から、企業には技術力だけでなく、市場の動向を察知し、今消費者に求められているものが何であるか分析する、市場開発力が必要であるということもよく理解できた。

■ 商品の販売過程

最後に、商品は「開発」「生産」「販売」「市場」という販売過程を経ており、企業はこの一連の流れを終えて初めて収益を得ることができることがわかった。ビールのように、日が経つにつれ品質が落ちるものについては、特に「生産」から「販売」までの過程をどれだけ早く行うかが鍵となっており、収益を早く回収する重要な戦略となっていることも知ることができた。

3. 課題 3

この講義についての要望、または期待することを自由に書いてください。

授業内容については特に要望はありません。現行の授業内容・授業レベルで大変満足しています。ただ、できればシラバスに沿った授業速度で講義を進行して欲しいと思います。

4. 参考文献

以下の Web サイトを参考にした。

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

<http://ja.wikipedia.org/wiki/>